

# 食害の被害があればシカは獲れるのか ～センサーカメラを用いたわな初心者の捕獲取組～

信州大学 農学部農学生命科学科  
元長野県林業大学校 林学科

○佐々木 ヒロ  
すえつぐ 譲  
もりた 翔太  
森田 しょうた  
わ こ ともはる  
輪湖 知治

## 1 課題を取上げた背景

長野県ではニホンジカ（以下、シカ）の生息域が急速に拡大し、シカによる農林業被害額は最も大きくなっています。このため、県内各地でシカの個体数調整が重点的に進められていますが、木曽地域を含むシカの管理ユニットでは捕獲数は増加傾向にあるものの、シカの分布拡大に対して十分な捕獲体制が整っていない場合は増加数に捕獲数が追いついていないことが課題とされています。一方、新規狩猟免許取得者の多くはわな猟であることから、県林業総合センターは、新規狩猟免許取得者の狩猟者としての定着とシカの捕獲数の増加を図るため、自動撮影カメラ（以下、カメラ）を活用した狩猟初心者でも捕獲できる方法を提案しています（以下、カメラ捕獲）。そこで本発表では、自分たちが木曽地域で植栽したヒノキがシカの食害に脅かされている現状に対応したいと考え、カメラ捕獲を実践しました。

## 2 取組の経過

捕獲試験地は、ヒノキの植栽木や広葉樹のシカ食害が見られる木曽郡木曽町新開としました。カメラは2023年9月25日から2024年2月14日まで、わなは2023年11月15日から12月14日まで設置しました。

今回のカメラの設置からわなの設置までの手順は以下のとおりです。

- ①シカが通っていそうな5箇所の獣道に向けてカメラを5個設置
- ②定期的にデータを回収し、各カメラで撮影された写真の撮影期間・動物種・頭数を整理
- ③②のデータを元に一日当たりの撮影頭数を計算
- ④一日当たりの撮影頭数が高い箇所にワナ6基を設置

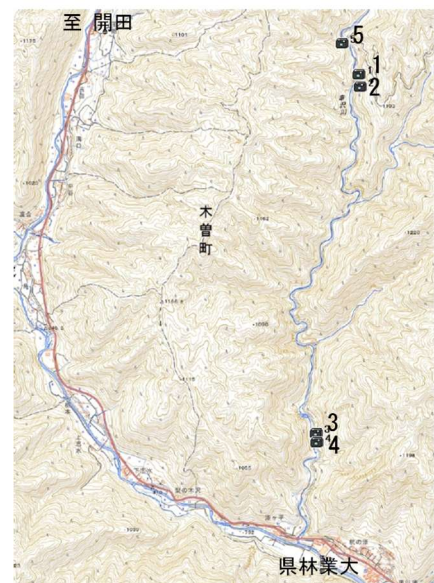


図1 カメラ設置位置図

### 3 結果

獣種別の撮影頭数を図1に示します。調査期間中最も多く撮影された動物はタヌキで、No.1で48頭が撮影されました。シカの合計撮影頭数は、No.1で1頭、No.2で2頭となり、その他のカメラでは撮影されませんでした。これを一日あたりの撮影頭数に換算すると表1のとおりとなり、わな設置直前の10月16日から11月14日までの撮影頭数はNo.1で0.033頭/日、その他のカメラは0頭/日となりました。No.1で30日間わなを設置した結果、シカは捕獲されず、タヌキ1頭を捕獲しました。

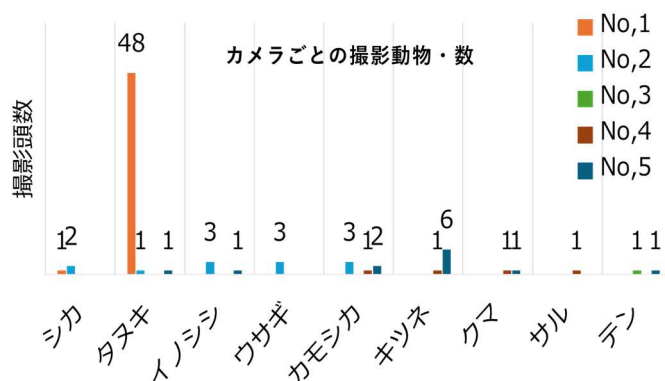


図2 獣種別の撮影頭数

表1 30日毎のシカの平均撮影頭数（頭/日）

| カメラNo. | 9/25～<br>10/15 | 10/16～<br>11/14 | 11/28～<br>12/14 | 12/15～<br>1/14 | 1/15～<br>2/14 |
|--------|----------------|-----------------|-----------------|----------------|---------------|
| 1      | 0.048          | 0.033           | 0               | 0              | 0             |
| 2      | 0.048          | 0               | 0               | 0              | 0             |
| 3      | 0              | 0               | 0               | 0              | 0             |
| 4      | 0              | 0               | -               | -              | -             |
| 5      | 0              | 0               | -               | -              | -             |

### 4 考察

今回、食害があってもシカが獲れる訳ではないということが分かりました。それは、今回の試験地は狩猟初心者がシカを捕獲できる条件である「わな設置前30日間の一日あたりの撮影頭数が1.0頭以上の箇所」に満たなかったためと考えられます。一方、撮影頭数が1.27頭/日だったタヌキが捕獲されました。このことから、一日あたりの撮影頭数が1.0頭以上であれば、動物の種類に限らず捕獲できる可能性があると言えました。